

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- 1年①基本的な学習態度の定着 ②読書習慣の定着 ③言語・表現活動の充実 ④書く作業の増加
 2年①意欲的な学習態度の定着 ②書く能力（漢字書き・作文）の定着 ③読解力の定着
 3年①意欲的な学習態度の定着 ②書く能力（漢字書き・作文）の定着 ③言語・表現活動の充実

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>小学校までに身に付けてきた学力の分析が主となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 観点別ですと「話す・聞く能力」と「書く能力」については、区の平均正答率を上回っていますが、「言語についての知識・理解・技能」がやや下回っています。 基礎・活用ともに区平均を上回っています。 	<p>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が一部います。</p> <p>②文章を丁寧に読み進める姿勢の弱い生徒がいます。特に論理的文章の読解に抵抗感を示す生徒が多くいます。</p> <p>③決められた量の文章を書けない、書くことに抵抗のある生徒がいます。</p> <p>④語彙能力や漢字の書きに関して不十分な生徒が多いです。</p>	<p>①基本的な学習態度、習慣の定着を図ります。（ノート作成、ワークシート記入の工夫）</p> <p>②読書の機会を設け、論理的な文章の構成を示し、各構成をまとめることを通して読解力をつけていきます。</p> <p>③文章の型の理解、テーマに応じて型を選択して文章を書くことで、「書く」ことに取り組みやすい工夫をします。</p> <p>④毎週漢字テストを行い、家庭学習の習慣を身につけ漢字を書く力をつけていきます。</p>
2年	<ul style="list-style-type: none"> 観点別にみると、「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」は区平均を上回っていますが、「読む能力」と「言語についての知識・理解・技能」は区平均を下回っています。 特に「漢字を書く」については、区平均よりも大幅に下回っています。 	<p>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が見られます。</p> <p>②文法理解のための反復練習や、毎週の漢字テスト等、努力と忍耐、集中力が求められる学習に対して、抵抗感を示す生徒がいます。</p> <p>③登場人物の心情を読み取ることや要点を的確に捉えることが不十分な生徒がいます。</p>	<p>①基本的な学習態度の定着を図り、学習意欲を育てます。（ノート作成、ワークシートの記入の工夫）</p> <p>②漢字、文法等小テストの実施機会を増やし、家庭学習を定着させていきます。</p> <p>③登場人物の行動からその心情を読み取る活動を増やすとともに、説明文における事実と考察を明確に分け、要点を的確に読み取る授業の展開をしていきます。</p>
3年	<ul style="list-style-type: none"> 観点別では「国語への関心・意欲・態度」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」は区の平均を上回っていますが、「話す・聞く能力」は区の平均を下回っています。 「話す・聞く能力」は特に「話し合いの内容を聞き取る」ことが区の平均を下回っています。 	<p>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が一部見られます。</p> <p>②口頭で伝えたことや話し合いで聞き取ることができない生徒がいます。また、話す際に相手が理解しやすいように「内容を整理」「話の順序を考えてから話す」ことを苦手とする生徒がいます。</p> <p>③漢字の書きに課題がある生徒がいます。</p>	<p>①基本的な学習態度、習慣の定着を図ります。（ノート作成、ワークシート記入の工夫）</p> <p>②スピーチ、集団討論等を実施して話を聞く姿勢や内容を聞き取る力をつけていきます。ナンバリングやラベリングなどの技術を通して、相手に伝わりやすいように順序立てて「伝える」ことを意識化するように指導をします。</p> <p>③学習コンテスト、毎週の漢字テストを行い、漢字の読み、書きの力をつけていきます。</p>

(2) 社会科

社会科の重点	
1年	①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着 ③活用力の向上
2年	①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着 ③応用力の向上
3年	①学習意欲の向上 ②基礎学力の充実 ③活用力の向上

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校までに身に付けてきた学力の分析が主となります。 ・観点別の正答率は、すべての観点で区の目標値を下回っており、活用力は目標値を大きく下回っています。 ・領域別正答率では、「我が国の農業や水産業」「我が国の政治」で区の目標値を大きく下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①積極的に発言するなど学習意欲は高いですが、発言内容が断片的であったり、一面的であったりします。 ②社会的事象について多面的・多角的に捉え、論理的にまとめ表現する力が不足しています。（「表現力」の達成率が0%の生徒が全体の62%） ③基礎学力が不足し、達成率が20%を下回る生徒の割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力の定着に向けた改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な社会的事象を個別にお知識として覚えるのではなく、相互の関係や結びつきを理解させるように教材を構成します。 ・小テストや復習用の課題を活用して反復学習の機会を確保させるとともに、補習を設定し、基礎的知識の習得を支援します。 ②思考・判断・表現の能力育成のための改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的事項を、資料と関連付けたり比較したりしながら捉えるような学習や、課題解決型の学習など取り入れ、思考力を伸ばします。 ・主体的・対話的なより深い学びを通して、表現力の育成を図ります。 ・定期考査において資料活用力や思考力・判断力・表現力を問う問題を計画的に出題します。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別の正答率は、すべての観点で区の目標値を上回っており、社会的な思考・判断・表現については目標値を大きく上回っています。 ・基礎力に比べ活用力が目標値を大きく上回っています。 ・領域別では、「世界の諸地域」が区の目標値を下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①積極的に発言するなど学習意欲は高いですが、発言内容が断片的であったり、一面的であったりします。 ②多面的・多角的に捉えさせた社会的事象が、系統的に整理されていません。 ③授業中の集中力が持続しない生徒が見受けられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力の定着に向けた改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・思考・判断・表現を伴う活動を通じて知識を身に付けさせるとともに、身に付けた知識を整理するための小テストや復習用の課題を提示します。 ・反復学習の機会を確保させるとともに、補習を設定し、基礎的知識の習得を支援します。 ②思考・判断の能力育成のための改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で発問などの内容を工夫し、資料を活用したり、課題解決型の学習活動の機会を取り入れたりします。 ・自分の考えをまとめたり、発表したりする学習課題を設定します。 ・定期考査において資料活用力や思考力・表現力を問う問題を計画的に出題します。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は、すべての観点で区の目標値を上回っており、関心・意欲・態度、思考・判断・表現は大きく上回っています。 ・領域別正答率では、「近代の日本と世界」が区平均値を大きく下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力が不足する生徒にとっては思考を促す活動、資料を読み解く活動などが難しく、学習意欲の低下につながっていると思われます。 ②課題を追究する意欲は高いのですが、その中で捉えた社会的事象が、系統的に整理されていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力の定着に向けた改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、学習したこと（考えたこと・調べたこと、知識として身に付けるべきこと）を振り返り、簡単なワークシートにまとめさせます。 ②思考・判断の能力育成のための改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で発問などの内容を工夫し、資料を活用したり、課題解決型の学習活動の機会を取り入れたりします。 ・自分の考えをまとめたり、発表したりする討論型の授業を設定します。 ・定期考査において資料活用力や思考力・表現力を問う問題を計画的に出題します。

(3) 数学科

数学科の重点

- 1年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着と向上 ③活用力の定着と向上
 2年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着と向上 ③活用力の定着と向上
 3年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着と向上 ③活用力の定着と向上

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習内容は全ての観点や領域で目標値を上回っています。 ・強みは技能です。また、分野としては測量・図形・数量関係と幅広く既習の事項が身に付いていることです。学習アンケートでも意欲的な回答が多いです。 ・課題は数と計算の領域がやや弱いこと。これは、思考力は身に付いても、計算力不足によるものと思われます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①苦手意識の克服 整数なら計算できるが、小数や分数の除法の計算に苦手意識を持つ生徒が一部います。 ②計算力の向上 小学校で培った力を伸ばし、図形や数量関係を深めるための計算力を養う必要があります。 ③活用力の向上 問題文を読み取り思考判断し数学的に処理する力を養う必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基本問題を、段階を踏んで解くことを重視し、苦手意識のある生徒でも「わかる・できる」気持ちを伸ばしていきます。 ②繰り返しの学習を実施することにより復習の機会を設けます。また、小テスト等で決められた時間内に正確に解く習慣を身に付けさせ、計算力の向上に努めます。 ③活用を扱う授業では、答えだけでなく、なぜそのように考えたのを大切にし、数学的に発表する授業を展開します。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての観点や領域で目標値を上回りました。 ・強みは活用分野（表現力）がよくできることです。学習アンケートでも意欲的な回答が多いです。 ・課題は数学的な技能が弱いことです。意欲に比して計算力不足により正答できていないと考えられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎・基本の定着 小学校や1年の学習内容の基礎・基本を定着させる必要があります。 ②技能の向上 見直しをしない生徒が30%程度で、計算力不足により、見直す余裕がないと考えられます。 ③活用力の向上 計算力不足により、活用の問題を諦めてしまう生徒が一部います。 	<ul style="list-style-type: none"> ①習熟度別授業でスパイラルの指導を実施します。補習で既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図ります。 ②単元末ごとに数回に渡って確認テストを実施します。繰り返しできるまで指導し、基本的な計算の技能の向上に努めます。 ③活用を扱う授業では、答えだけでなく、なぜそのように考えたのを大切にし、数学的に発表する授業を展開します。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての観点や領域で目標値を上回っています。 ・強みは活用分野（思考・判断力）がよくできることです。証明を面白いと思う生徒が本校は65.8%と多いです。（区全体54.7%） ・課題は数量・図形などについての知識・理解が弱いことです。数学的な技能についても伸び悩んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎・基本の定着 直前に学習した確率や資料の活用はよくできますが、過去の学習内容の定着が課題です。 ②技能の向上 問題を解いたあとミスがないか見直す生徒は88.1%ですが、計算力不足により正答できていないと考えられます。連立方程式の計算、直線の交点、三角形を二等分する直線の式が苦手です。 	<ul style="list-style-type: none"> ①習熟度別授業でスパイラルの指導を実施します。既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図ります。夏休みには個に応じた課題を用意して補習を行い、1・2年の復習に取り組めるよう支援します。 ②毎週、確認テストと補充学習を実施しています。計算コンテストも年2回行っていきます。計算力不足を補うように、繰り返しできるまで指導して技能の向上に努めます。

(4) 理科

<p>理科の重点</p> <p>1年 自然の事物現象を見て、問題 を発見する力を身に付ける。</p> <p>2年 発見した問題に対して課題を設定し、実験観察の計画を立てる。</p> <p>3年 自然の事物現象を調べ、探求のプロセスを振り返り改善する。</p>

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> 観察実験の技能意外の観点で、目標値を下回っています。 自然事象への関心意欲態度の観点が、特に低い値を示しています。 「生物とかんきょう」の問題では特に正答率が低くなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小学校からの学びの連続性を考慮し、生徒の興味や関心を高める授業が必要です。 ②小学校の学習内容が定着していない分野では、中学校の学習も理解できない傾向があります。 ③既習内容や生活経験を、新たな問題に適用して考えることに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業の導入部で、小学校での学習内容を思い出させるような導入を行います。小学校の学習内容を考慮した年間指導計画を作成します。 ②小テストなどを利用して基礎学力の定着を図ります。 ③既習事項や生活経験を活用しながら考える機会を増やし、定着や応用力の向上を図ります。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 全ての観点で、区の平均値を上回りました。 知識理解の観点では校内平均値が目標値を下回っています。 「植物の分類」の問題では特に正答率が低くなっています。 「生命」と「地球」領域の正答率が低くなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小学校までや中1の学習内容の基礎・基本を定着させる必要があります。 ②身近な植物を観察したり、手にとって見たりする機会が少なく、観察の基礎が身に付いていません。 ③植物や地学に興味・関心をもたせる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察や実験をできる限り多く行ない、技能の習得と興味・関心の向上を図ります。 ②短い期間で小テストを行い、内容の定着を確実にします。 ③質問教室や補充教室を行い、遅れがちな生徒をフォローしていきます。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ全ての項目で目標値を5下回っています。 正答率では、特に「生命」「地球」の領域が低くなっています。 問題別の正答率では、「生物と細胞」の内容の正答率が特に低くなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 今回の結果からテスト時にはとれていた内容が、定着していませんことが分かりました。 ② 計算系の問題に苦手意識をもつ生徒が多いようです。 ③ 生物分野や気象関係に関心を持たせる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 繰り返し学習や小テストを多用し学習内容の定着を計ります。 ② 計算が必要な分野では、補習や質問教室を行っていきます。 ③ 都立高校受検に向けて、基礎を固め応用力をつけるための問題演習などを、授業内や補習で行っていきます。

(5) 音楽科

音楽科の重点

- 1年 音楽を楽しみ、愛好する心情を育てる。
- 2年 表現することのおもしろさを知り、積極的に表現活動を行う。
- 3年 鑑賞と表現のつながりに気づき、創造的な表現を工夫できるようにする。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することに意欲的な生徒が多いです。変声期がまだために音域が合わず、歌うことに楽しさを見いだせない生徒がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて音を聴き合う環境に慣れさせる必要があります。 ・音楽における基礎・基本を定着させ、表現につなげていくことが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの領域に偏らず、歌唱・鑑賞・器楽・創作の各領域の系統性をもたせた授業を展開します。 ・ワークシートでの繰り返し学習を行い、学習内容を表現活動へと生かしていきます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことに意欲的な生徒が多くいます。しかし、力任せに歌ってしまうのが課題です。 ・基礎基本が定着している生徒は少ないです。そのため、基礎基本を使った表現が苦手な生徒が多くいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を活用する能力に個人差があります。 ・話し合い、学び合いの場面を増やし、個々の主体性を引き出す手立てが必要です。表現活動を牽引する生徒を育てる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を使って表現する機会を増やし、学習内容の定着を図ります。 ・グループ学習を取り入れ、自分の考えを、根拠をもって発表し合う機会を作り、学習と表現の内容を深めていく工夫を取り入れます。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対して積極的な生徒が多くいます。一方で受け身がちな生徒もまだまだいるので、個々の主体性を更に伸ばしていくために、協働的に高め合う活動を積極的に取り入れていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を活用する能力に個人差があります。 ・受け身がちな生徒が、主体的に取り組めるような手立てが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動の中で、他者と調和・共感し合いながら表現を深める活動に重きを置きます。 ・自主活動を意図的に計画し、支援していきます。 ・自己評価や他者評価など、生徒自身が授業の中で互いに評価し合える活動を多く取り入れます。 ・言葉をもって自らの考えを整理し、表現につなげる活動を取り入れます。

(6) 美術科

美術科の重点 <全学年>

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み、心豊かに創造していく意欲と態度の向上を図る。
- (2) 多様な表現方法や造形要素に関心をもち、創意工夫して美しく表現する能力を育成する。
- (3) 自然や美術作品などについて、よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力の充実を図る。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に多くの生徒は授業に取り組む姿勢は熱心で意欲的です。 ・作品の制作進度の差が大きく、遅い生徒の指導と配慮が必要です。 ・生徒によって予備知識の差で鑑賞教育に理解差が出ています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業時間内に作業に計画的に取り組めず、作品が仕上がらない生徒がいます。 ②制作手順や技法について十分に理解できない生徒がいます。 ③生徒の経験値によって情報の共有し合えず、満足な授業ができませんことがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の実態や特長を把握し、適切な課題の設定と教材の開発（興味の広がる）に努めます。 ②アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境をつくり、制作の姿勢を身に付けさせます。 ③授業導入時に5分間鑑賞を行い、誰でも一から理解できる時間を作ります。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・例年に比べ生徒の数に変化が生まれ、集中できる、できない生徒で分かれています。 ・1時間の授業に全員が集中して取り組める授業づくりが必要です。 ・生徒の意識を高めるために、考えさせたり手を動かしたりする時間を授業内に設定する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①集中が続かない生徒が作業が遅れ、生徒の能力差が生まれます。 ②作品の制作進度に大きな差が生じています。 ③考えながら、先を見通して制作する姿勢を身に付けさせる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①関心を持たせるための題材、授業展開の他、メリハリのある指導を大切にします。 ②アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境をつくり、制作の姿勢を身に付けさせます。 ③授業導入時に5分間鑑賞を行い、誰でも一から理解できる時間を作ります。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に授業に取り組む姿勢、意識が高く、真面目です。 ・集中力が続かず、作品が完成できない生徒が数人います。 ・作業は熱心に行いますが、創意工夫、考えることに苦手意識のある生徒がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①意欲的でも、勉学への関心を持つ持たないで差が生まれています。 ②作品制作は取り組みますが、制作過程の大切さを理解できていない生徒がいます。 ③自分で考えてものを作ることが苦手で、前例がないと戸惑ってしまいう生徒がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の実態や特長を把握し適切な課題の設定と教材の開発に努めます。 ②アイデアスケッチなど先を見通して制作させる時間を作ります。 ③授業導入時に5分間鑑賞を行い、日常生活の中にある美術の果たす役割にも目を向け、卒業後も美術に対する興味・関心をもち続ける意識（感性）を育てます。

(7) 保健体育科

保健体育科の重点 <全学年>

- (1) 運動と健康・安全の関係を意識し、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させる。
- (2) 基礎的な技能や知識を身につけ、それを活用する力（思考力・判断力・表現力等）を育む。
- (3) 運動の楽しさや喜びを味わわせ、生涯スポーツに向けた実践力を育てる。
- (4) 意欲的に学びに向かう力、仲間と関わり合いながら学習する力を育む。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力は男子が、体力テストにおいて全種目ほぼ平均的です。女子は、柔軟性は平均を上回っているものの、瞬発力、投力が平均を下回っています。 ・学習や運動への意欲、関心は高いですが、思考力・判断力について不十分な面もあります。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎的な身体能力の向上を図ります。 ② 主体的に学びに向かう力を育てます。 ③ 自己の課題に取り組む姿勢を育てます。 ④ 思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 種目に応じた補助運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。 ② 学習カードや ICT の活用で思考力・判断力・表現力の向上を図ります。 ③ グループ学習のモデルを示し、チームやペアでの教え合いや話し合いを通して、係やリーダーの育成に力を入れます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力は男子が、体力テストにおいてスピードと投力が平均を下回っています。女子は、筋力と敏しょう性が平均を上回っています。 ・概ね、運動への関心・意欲は高いですが、二極化傾向も見られます。 ・課題を文章で記述する力が不十分な面があります。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎的な身体能力の向上を図ります。 ② 主体的に学習に取り組む、自己の課題を我慢強く解決する姿勢を育てます。 ④ 思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 種目に応じた補助運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。 ② 係やリーダーを中心とした自主的な授業を進めていくことができるようにします。 ③ 学習カードや ICT の活用で思考力・判断力・表現力の向上を図ります。 ④ グループやチーム分けに配慮し、教え合いや話し合いの機会を増やします。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力は、男子がほとんどの種目で平均値かやや上回っています。特に、筋持久力が高い傾向にあります。女子もほぼ平均的ですが、若干投力に課題が見られます。 ・概ね、運動への関心・意欲は高いですが、特に女子において二極化傾向も見られます。 ・学習意欲は高いですが、思考力・判断力・知識について不十分な面もあります。 ・係やリーダー中心に学習を進めることができます。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎的な身体能力の向上を図ります。 ② 主体的に学びに向かう力と協力して学習を進める人間性を育てます。 ③ 自己の課題を的確に理解し、課題解決に意欲的に取り組む姿勢を育てます。 ④ 思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 種目に応じた補助運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。 ② 係やリーダーを中心とした自主的な授業を進め、授業全体で協力し、互いに高め合う雰囲気を作っていきます。 ③ 学習カードや ICT の活用で思考力・判断力・表現力の向上を図ります。 ④ グループやチーム分けに配慮し、教え合いや話し合いの機会を増やします。

(8) 技術・家庭科

技術・家庭科の重点 <全学年>

- (1) 課題解決に重点を置いた学習指導を展開し、生徒が主体的に取り組む授業を目指します。
- (2) 実践的・体験的な学習活動と、適切な評価をおこなうことで学習意欲を高めるようにします。
- (3) 生活と知識と技能を関連させた題材により、考えて発表する言語活動を充実させます。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。 ・落ち着いて授業に取り組んでいます。 ・実習では製作進度に個人差が大きく配慮が必要です。 ・衣食住への興味はありますが、基本的な概念の理解に繋がっていない生徒もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記事や製作で個人差が大きいです。 ・作品製作の体験が少ないので、作業の基礎・基本を丁寧に指導する必要があります ・表現力・発表力の向上が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や製作進度が速い生徒に先生役をお願いし、遅れている生徒の手助けを行います。 ・それぞれの生徒が家庭生活で役立つ収納作品の設計と製作を通じて、創造性を高めます。 ・家庭生活や衣生活での重要性について重点を置きます。生活を具体的に見直すワークシート等活用します。 ・毎時間、見通しを立てて製作できるようにします。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。 ・落ち着いて授業に取り組んでいます。 ・実習に対して苦手意識をもっている生徒が多いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記事や製作で個人差が大きいです。 ・表現力・発表力の向上が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術と実生活との関連を考え、生活の中に役立つ技術について考えて発表する教材を取り入れて、言語活動を充実します。 ・個別指導で、必要な支援を行います。 ・生徒がつまづきやすいポイントを示しながら分かりやすく説明します。 ・実習の技能面での基礎・基本をくり返し行って確実に習得できるように指導します。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。 ・落ち着いて授業に取り組んでいます。 ・意欲的に製作に取り組むことができます。 ・作業の中で創意工夫が苦手な生徒もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記事や製作で個人差が大きいです。 ・表現力・発表力の向上が課題です。 ・子どもの成長について考察する姿勢に個人差があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術分野はものづくりを多く取り入れ、実践活動を充実させます。 ・家庭分野に幼児とのふれあい体験を取り入れ、伝えたり実践したりしていく活動を充実させます。 ・幼児向けおもちゃの製作活動を通して、幼児の成長に関心をもてるようにしていきます。 ・生徒が動きやしかけなどの工夫点を考えながら創作できるような環境作りを徹底します。

(9) 英語科

英語科の重点

- 1年 ①自立的な学習態度の定着 ②基礎学力の定着 ③言語活動の充実
 2年 ①自立的な学習態度の定着 ②基礎学力の定着 ③言語活動の充実
 3年 ①自立的な学習態度の定着 ②基礎学力の定着 ③言語活動の充実

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> 授業の様子やアンケートから、小学校時の外国語活動により、英語学習に積極的に取り組む姿勢がわかります。 中学校英語に対する不安がある生徒が多く、特に「書くこと」に対する不安が強いようです。 書く力が弱いです。アルファベットの特に小文字を正確に書けない生徒もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習態度が定着していない生徒も一部います。 大文字と小文字の区別ができない生徒がいます。文の書き方のルールを理解していない生徒がいます。 言語活動では自信を持ってコミュニケーションをとることが苦手な生徒もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習態度を身につけさせるため、スモールステップで達成感を得させられる授業展開を行います。 教科書以外でも様々な文や単語に触れる機会を増やすことで、正しい書き方の定着を促します。 発表後のフィードバックを行い、生徒に自信を持たせることで発表への意欲を上げていきます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 問題別に見ると、ほぼ全国平均を上回っているものの(長文読解は0.3ポイント下)、区の平均には届いていない項目が多くあります。 まとまった量の作文を書くことについては比較的良い結果が出ていますが、意欲はあっても正確さに欠けることがあります。 長文を読み取る力がやや劣っています。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎的・基本的な知識を活用するための反復練習が不足しています。 ② コミュニケーションへの意欲は高いのですが、表現に必要な語彙力が乏しい傾向にあります。 ③ 英語の語順を理解し、自分で推測して読むような学習活動に力を入れていく必要があります。 	<ol style="list-style-type: none"> ① スモールステップで達成感を得られるよう小テスト等をこまめに行っていきます。また、副教材のワークを定期考査に必ず出題し、反復学習を促します。 ② 正確に英文を書く表現力を身に付けられるよう、熟語や重要表現の学習をもっと増やしていきます。 ③ 短めの読解問題を毎時間、帯活動として取り入れ、教科書以外の長文に慣れさせると同時に、質問に対する答え方を指導していきます。
3年	<ul style="list-style-type: none"> どの正答率においても、全国平均は上回っているものが多い一方で、区平均を下回るものが多いです。 観点別では、「外国語表現の能力」がほかの観点よりも劣っています。 領域別において「読むこと」が全体と比べ劣っており、問題別でみると「さまざまな英文の読み取り」の力不足が見られます。 	<ol style="list-style-type: none"> ①総合的には基礎活用力は身につけてきているものの、正確性に欠ける部分があります。 ②文法力・語彙力の不足により、自分の表現したいものをアウトプットできない傾向があります。 ③さまざまなパターンの文章や問題に適応する力を身に付ける必要があります。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 1, 2年次の復習ワークをくり返し学習させることで、更なる基礎の定着を図ります。 ②授業と家庭の両方で文法事項や重要表現のくり返し学習をさせることで、使える表現の定着を図ります。 ③帯活動や入試問題など、さまざまな長文問題に触れる中で、逐一その解き方や読み進め方を指導していきます。